

## 子育て世代男性の 『希望と現実』の差に驚く

わこうプラン推進委員  
浅野 里香

気になる新聞記事がありました。『隠されている「日本男性の状況の異常さ」もうひとつのジェンダーギャップ』という東京大学大学院教授、本田由紀さんの寄稿です。内閣府が2020年10月～翌年1月に実施した「少子化社会に関する国際意識調査」を取り上げていました。

調査の「日常の仕事、家庭、個人の生活の優先度」では、とくに男性側の「希望と現実」に大きな隔たりがありました

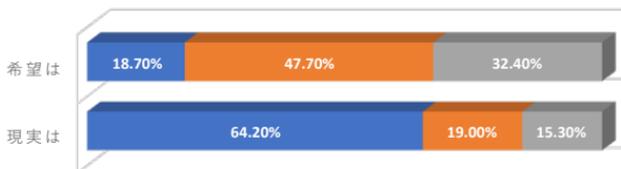
(グラフ参照)。日本の子育て世代の男性で「仕事を優先したい」と思う人は2割弱なのに、実際は6割強が仕事を優先とは驚きました。女性も同じ傾向です。

男性が抱える課題の解決を図らないまま「男性並みの男女平等」を目指すのでは「希望と現実の差」の拡大再生産になるでしょう。個人に寄り添い「仕事と家庭の調和」がかなう社会を推進することで男女格差も「希望と現実の差」も縮まる気がしています。

### 20～40代日本人男性

#### 仕事、家庭、個人の生活の優先度

■ 仕事を優先 ■ 家庭生活を優先 ■ 個人の生活を優先



家庭優先の生活を希望する人は多いが実際は6割強が仕事優先の生活に。  
(内閣府「令和2年度少子化社会に関する国際意識調査」より作成)